

J-SOXコンサルティングサービスのご案内

株式会社ビジネスデバイス

会社案内

株式会社ビジネスデバイス (Business Device Co.,Ltd.)

本社・大阪オフィス 大阪府茨木市駅前3丁目2-2晃永ビル5階

東京オフィス 東京都中央区日本橋堀留町1-1-13 藤田ビル4F

代表者名 犬飼 陽介 (公認会計士・税理士)

設立 平成13年8月

資本金 1,000万円

スタッフ数 公認会計士15名(うち、システム監査経験者2名)
システムエンジニア3名(うち、システム監査技術者1名)
コンテンツ制作・事務5名
(平成20年7月1日現在：業務提携スタッフ含む)

事業内容 内部統制 (ICFR) サポートサービス
株式上場 (IPO) サポートサービス
企業会計・開示スタッフ育成サービス
決算短信・有価証券報告書レビューサービス

代表者経歴

昭和44年大阪府生まれ。

平成4年同志社大学卒業後、平成7年中央監査法人京都事務所に入社。

● 監査法人での業務

製造業、情報通信、飲食業、建設業、システム開発業、金融業、商社、サービス業などの監査に従事。また、海外での資金調達支援業務や株式公開支援業務にも従事。

▶ 平成13年、中央青山監査法人退社後、**株式会社ビジネスデバイス**を設立。

● 株式公開サポート業務

関西エリアを中心に、株式公開準備会社の管理部長、経営企画室長などコンサルタントであると同時に、社内の一員として、内部統制構築、事業戦略立案、営業推進などのサービスを提供。

▶ 平成18年よりJ-SOX対策コンサルティング業務を開始し、現在、上場会社、上場準備会社を対象にコスト効率的なミニマム・アプローチの導入を提唱している。

弊社のJ-SOXコンサルティングの特徴1/2

1 1st J-SOX監査に対応することを最優先課題と考えます

残された時間を考えると、内部統制の構築に際して、あれもこれもと欲張ってしまうと、監査までに間に合わなくなるおそれがあります。初年度は、限られた時間と経営資源を「財務報告の信頼性に係る内部統制」の部分に特化すべきであると考えています。また、監査上の強制項目と推奨項目を明確に区別し、推奨項目のうち時間とコストを要するものに関しては、2nd J-SOX以降で計画的に対応していくことをおすすめいたします。

2 After 1st J-SOXに対応できる社内コンサルタントを育成します

内部統制の評価・監査は、1回限りではなく、上場会社であり続ける限り、毎事業年度続きます。従いまして、毎年社外のコンサルタントに依存することになれば、J-SOX法の対応コストは非常に高くなります。私たちはそれを回避するために、1st J-SOXの中で、クライアント様の社内に来る限り多くの社内コンサルタントを育成することに主眼を置いております。それが、クライアント様にとって最善の方法であると強く信じております。

3 US-SOXでの経験を踏まえたJ-SOX独自の効率的なアプローチをご提案します

US-SOXを経験した公認会計士や、US-SOXに係る最新情報、J-SOX実務動向などを研究・分析しているナレッジリソースセンターが有するノウハウも私たちの大きなリソースの一つです。US-SOX現場では過剰な対応コストが発生したことから、その反省を踏まえた上での効率的なJ-SOX独自のアプローチ(ミニマム・アプローチ)をご提案いたします。

4 内部統制評価経験のある元監査人がヒアリングを実施し、RCMを作成します。

監査法人にて内部統制評価経験のある元監査人をメンバーとしたチーム編成を行っております。そのため、貴社のご担当の監査人と同一の視点でヒアリングおよびRCMの作成を行うことができ、スムーズなプロジェクト展開が可能となります。

5 IT全般統制やIT業務処理統制については、IT統制の考え方を熟知した弊社IT統制コンサルタントが担当します

IT統制の分野に関しましては、専門のIT統制コンサルタントが担当いたします。これによりJ-SOXに関連したIT統制への対応を効率的に実施することが可能です。

弊社のJ-SOXコンサルティングの特徴2/2

6 フローチャートの作成のアウトソーシングによって時間を短縮することができます

いわゆる3点セットと呼ばれています「業務記述書」「フローチャート」「リスクコントロールマトリクス（RCM）」の中で、予想以上に時間がかかるのが「フローチャート」と「リスクコントロールマトリクス（RCM）」です。
フローチャートの作成には慣れを要しますが、これまで内部統制を意識したフローチャートを作成したことがない方にとっては苦痛となる作業とも言えます。弊社ではフローチャートの作成を専門に行うシステムエンジニアを別途要しておりますので、業務記述書を作成していただければ、フローチャートの作成を代行いたします。

7 CSAの活用や内部監査手法に関するアドバイスを行います

CSA（セルフコントロールアセスメント）や内部監査の効果的な実施も、J-SOX対応コスト削減のためには重要です。会社の規模が大きくなるにつれ、CSAの活用度合は相対的に高まることとなります。
また、これまで監査法人が行っていた内部統制の評価の役割が、J-SOXでは実質的に内部監査に移管されたため、その重要性は飛躍的に高まります。こうしたCSAと内部監査といったモニタリング機能を充実させるために、当社の公認会計士が監査経験を生かしたアドバイスを行います。

8 社内研修用DVDやストーリーミングコンテンツの制作も可能です。

事業拠点が広範囲にわたっている場合や、時間効率的な社内研修の実施のために、必要に応じて、弊社コンテンツ制作グループがEラーニング用のストーリーミングコンテンツや社内研修用DVDをすべて自社で制作いたします（オプション）。

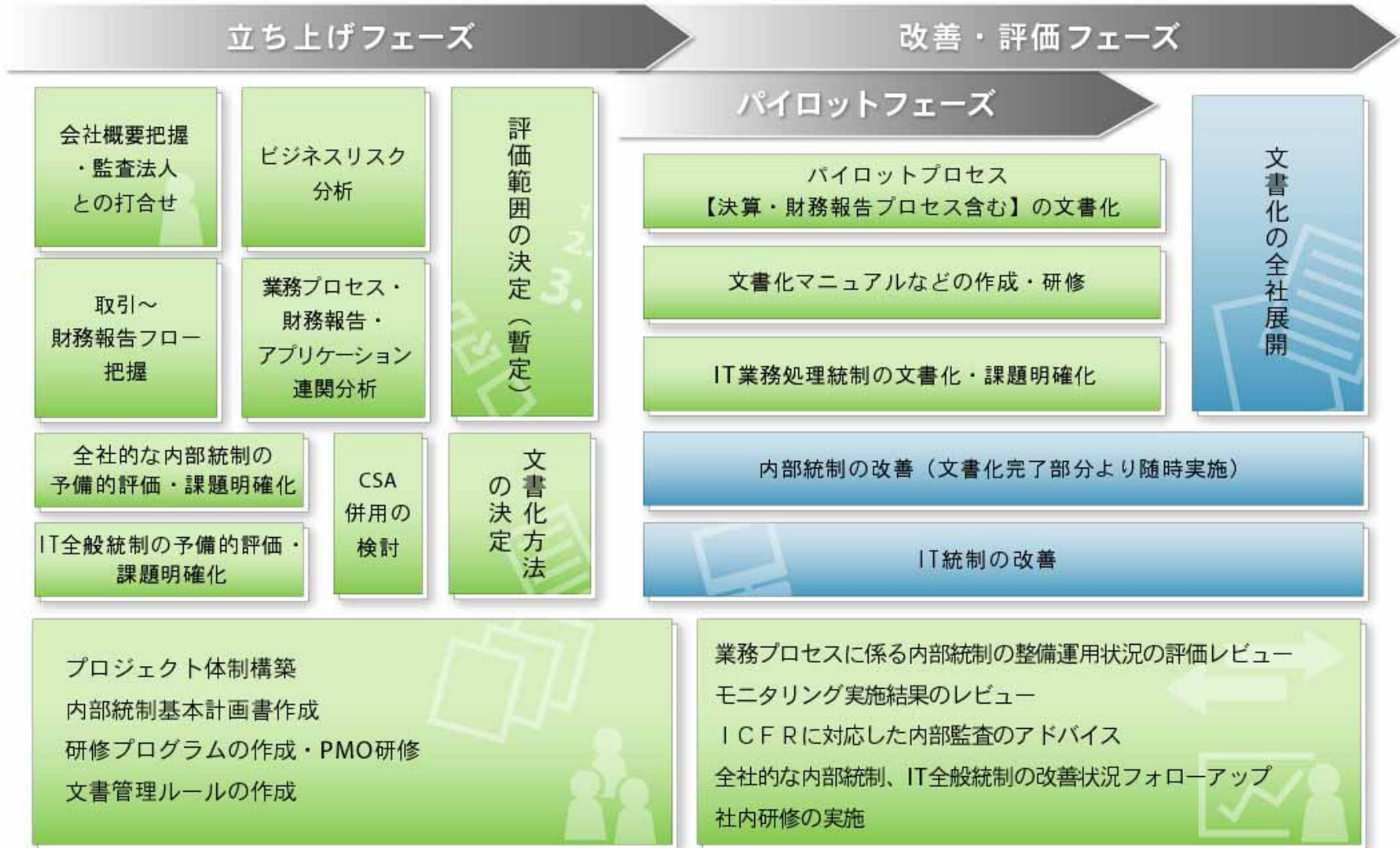
9 企業会計・開示スタッフを育成するための研修プログラムを作成・実施いたします。

J-SOXやIPO対応の中で求められる企業会計・開示スタッフの複数名確保はなかなか困難であるのが現状です。弊社では、短期間で一定レベル以上の企業会計・開示に関するスキルを有した人材を育成するための研修プログラムを、各クライアント様の状況に合わせて作成・実施するサービスを行っております。スタッフの採用がなかなか進まない場合には是非ご利用下さい（オプション）。

10 ご予算、作業期限に応じた柔軟なコンサルティングサービスが可能です。

弊社のコンサルティングサービスは、画一的なサービスパッケージではありませんので、お客様の具体的なニーズ、ご予算、作業期限に応じた最適なプランをご提案いたします。

J-SOXプロジェクト展開イメージ



■ …弊社作業 ■ …貴社作業

サービス内容(立ち上げフェーズ1/3)

会社概要把握・監査法人との打ち合わせ

プロジェクトに先立ち、必要に応じて業務視察も行いながら短期間で会社概要を把握します。また、監査法人に対してプロジェクトの進め方の説明を行うとともに、事前相談を行います。

取引～財務報告フロー把握

プロジェクト作業にもれがないよう、取引発生から財務報告が作成されるまでの業務フローやシステムフローを図表化し、把握していきます。

業務プロセス・財務報告・アプリケーション関連分析

業務プロセスと勘定科目や注記、アプリケーションシステムおよび関連するIT基盤の関係を図表化します。

ビジネスリスク分析

企業内外の諸要因にもとづくビジネスリスク分析表を作成し、勘定科目等への影響をアサーション別に検討します（会社法で要求されているリスクマネジメント分析と似ていますが、財務報告の信頼性の観点に絞り込んでいる点で異なります）

全社的な内部統制の予備的評価・課題明確化

実施基準で例示されている42項目に準拠した全社的な内部統制の質問シートを使い、全社的な内部統制の整備状況を把握し、課題を明確化していきます。全社的な内部統制が有効であれば、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲やサンプリング範囲を縮小することができますし、反対に有効でなければ評価範囲が拡大され、コスト増となる他、合理的な期間内に改善しなければ、重要な欠陥に該当するおそれもあります。

サービス内容(立ち上げフェーズ2/3)

IT全般統制の予備的評価・課題明確化

IT全般統制のチェックシートを使いながらIT全般統制の整備状況を把握し、課題を明確化します。実施基準等で最低限要求されている事項を強制事項とし、経済産業省のITガイダンスやCOBIT for SOXなどでのみ推奨されている事項を推奨事項として区別します。IT全般統制に不備が存在すると、IT業務処理統制にも影響を及ぼしたり、また改善せずに放置しておく重要な欠陥に該当するおそれもありますので、監査法人のシステム監査人にも相談しながら慎重に対応していきます。

CSA併用の検討

CSA（セルフコントロールアセスメント、自己評価システム）を併用するか、それともすべて内部監査で対応するかどうかを検討します。会社規模が大きく、複雑になってくるとマンパワーとコストの問題からすべてを内部監査で対応することは難しくなります。そのため、リスクが低い業務プロセスなどは、各部署でセルフチェックを行ってもらい、その結果を内部監査でダブルチェックした方が一般的にコスト効率的です。ただし、CSAを有効に導入するには、CSAの評価担当者に対する十分な研修を行う必要があります。

評価範囲の決定（暫定）

重要な事業拠点を選定し、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目に至る業務プロセスを暫定的に決定します。また個別に評価対象に追加すべき重要性の大きい業務プロセスをこれまでの調査をもとに決定します（なお、全社的観点から見た決算・財務報告プロセスはすべて評価範囲に含まれます）。評価範囲の決定を誤ると、後日追加作業が発生することになりますので、監査法人との間で慎重に協議を行うことが必要となります。

文書化方法の決定

評価範囲の決定を受けて、文書化方法を具体的に決定します。業務記述書、フローチャート、リスクコントロールマトリクス（RCM）といった3点セットを作成するに際して、その業務プロセスの内容とリスクの程度に見合った文書化方法を選択していきます。監査法人は主に、会社が作成した内部統制の評価プロセスに係る文書に基づき監査を行いますので（口頭説明は基本的にNG）、その文書化のレベル感について事前に監査法人に相談しておく必要があります。

サービス内容(立ち上げフェーズ3/3)

プロジェクト体制構築

プロジェクトの最高責任者（プロジェクトオーナー）とPMO（プロジェクト・マネジメント・オフィス）リーダーと相談しながら、財務・経理部、内部監査室、情報システム部、法務部（コンプライアンスの観点）、リスクマネジメント担当部門、広報・IR室、その他主要な業務部門などからPMOメンバーを選し、プロジェクトの目的とそれぞれの役割について説明します。また業務プロセスの責任者であるプロセスオーナーについてもPMOと協議しながら決定し、業務プロセスについての権限と責任を明確にします。

内部統制基本計画書作成

構築すべき内部統制の方針・ルール・範囲・レベルや、内部統制評価のための具体的なアプローチとそのスケジュール、組織体制、研修体制等をまとめた内部統制基本計画書をPMOと協議しながら作成します。

研修プログラムの作成・PMO研修

経営者、取締役会、監査役会、PMO、プロセスオーナー、従業員に対する内部統制に関する研修プログラムを作成してまいります。また、PMOメンバーご自身が社内コンサルタントになっていただけるよう、PMOに対する研修を行います。

文書管理ルールの作成

内部統制の評価において多種多様な文書を作成することになり、またその文書は最終的に監査法人の監査対象となります。さらに次年度以降も利用する文書も含まれており、体系的な文書管理を行わなければ、後日混乱することは必至です。作成・更新・削除・承認ルールや保管場所、アクセス制限ルール、ナンバーリングルールなど文書管理に関するルールを作成します。

サービス内容(パイロットフェーズ)

パイロットプロセス【決算・財務報告プロセス含む】の文書化

決算・財務報告プロセスを含む業務プロセスの中から選択したパイロットプロセスについて文書化を行います。文書化作業はプロジェクトにおいて最も工数のかかる部分となります。また、この部分で手を抜くと、監査法人による監査でやり直しを通告されることもありますので、文書化作業は気を抜かず慎重に行う必要があります。

以下パイロットプロジェクトの概要です。

- ①業務フローのヒアリングを通じて、業務記述書・フローチャート・職務権限表を作成します。
(フローチャートの作成を省略する場合があります)
- ②リスクコントロールマトリクス(いわゆるRCM)を作成し、キーコントロールを選定します。
- ③ウォークスルーを通じて、整備状況を評価します。
- ④整備上の不備が発見された場合には、その重要性に応じて改善計画を策定します(ギャップ分析表を作成)。
- ⑤キーコントロールのうち、整備が完了しており、一定期間の運用実績があるものについては、テスト計画表に基づき、運用テストを一部行い、運用テストの仕方をアドバイスいたします。

※この一連の作業について、貴社ご担当者様にも同席ないし部分的に共同作業を行っていただくことにより、弊社のノウハウを共有化することが可能です。

文書化マニュアルなどの作成・研修

パイロットプロセスの文書化を行う中で、文書化マニュアル(業務記述書、フローチャート、RCM)やウォークスルー実施マニュアル、テストマニュアルなどのマニュアル類を整備していきます。

また、これをもとに社内研修を行いますので、パイロットプロセス以外の業務プロセスの文書化を自社単独で展開していくことが可能となります。

IT業務処理統制の文書化・課題明確化

3点セット作成作業において、IT業務処理統制上の課題も明確にしていまいります(システムの複雑度に応じて弊社IT統制コンサルタントも評価作業に参加する場合があります)。

サービス内容(改善・評価フェーズ)

業務プロセスに係る内部統制の整備運用状況の評価レビュー

貴社が行った内部統制の整備運用状況の評価結果に関する文書（業務記述書やフローチャート、RCMを含む）について、弊社にてレビューいたします。

モニタリング実施結果のレビュー

取締役会、監査役会、内部監査などによるモニタリング実施結果について、弊社にてレビューいたします。モニタリングはJ-SOXにおいて重要性が非常に高く、各社とも対応が遅れがちな部分でもあります。

ICFRに対応した内部監査のアドバイス

J-SOX導入後は、結果として、監査法人が行っていた監査業務のかなりの部分を、自社でも行うこととなります。そのため、内部監査部門は、業務の知識以外に財務報告に関する知識も必要となります。こうした財務報告にかかる内部統制（ICFR）に短期間で対応するため、これまで監査法人にて監査を行ってきた公認会計士がその監査手法についてそのエッセンスをコンサルティングいたします。

全社的な内部統制、IT全般統制の改善状況フォローアップ

立ち上げフェーズで抽出された全社的な内部統制、IT全般統制についての課題についてその改善状況をフォローアップいたします。

社内研修の実施

社内コンサルタントを一人でも増やしていくことがJ-SOX対応コストを減らす最大のポイントであると私たちは考えます。そのため、J-SOX、内部統制に関する正しい理解をしていただくために、定期的に社内研修を実施いたします（ビデオ撮影をしていただいても結構です）。

- ▶ プロジェクトベースでのサービス以外にも個別業務や研修、フローチャート制作代行なども承りますのでお気軽にお問い合わせ下さい。


内部統制専門HP

<http://www.internal-control.jp>

お問合せ先

株式会社ビジネスデバイス [担当：犬飼]

✉ メールの場合：上記HPのお問い合わせページより

📞 お電話の場合： ファックス 0120-02-1105 (平日午前9時～午後5時)